

『コロナより、コロナ政治に腹が立つ—うだつの上がらない老大学教授とその若い単位不足ゼミ学生との腹立ち紛れの政治珍問答—』 馬兎 鹿象

<目次>

- (1) 政治はどぶ川
- (2) 政治家ってどんな人たち？
- (3) オリンピック強行
- (4) Go To トラベルという火に油を注ぐ政策
- (5) スピード感？、誠意が伝わって来ない
- (6) 経済と人命を天秤にかけるとは？

注意：「コロナ」の一語は文脈によって新型コロナウイルス感染症（Covid-19）や新型コロナウイルスやコロナ禍などを表しています。

(1) 政治はどぶ川

学生「政治を川に例えると、どんな川でしょうか。」

教授「決まっているじゃないか、どぶ川。『水の清きに魚（うお）住まず』というから、ちょうどいいのかもしれない。」

学生「どういう意味ですか！」

学生「国民はコロナ政治に振り回されてきましたね。コロナをきっかけにして政治の正体がよくわかりました。」

教授「うん、振り回されているどころか、泣かされている。」

学生「腹立つのはコロナじゃなくって、コロナ政治ですね。」

教授「『コロナより、コロナ政治に腹が立つ』という言葉もあるようだよ。」

学生「微妙にごまかしていませんか。それ、自分が作ったんでしょ！」

教授「まあ、どこかの国のコロナ政治は独裁国家や犯罪国家の政治より、はるかにマシだけれどね。」

学生「大体、政治って何ですかね。」

教授「政治とは税金だ。税金は国民からの金銭の合法的収奪だと表現する人もいるぞ。」

学生「それは誰ですか。ご自分でしょ？ 確かに、国家には湯水のように使える税金がありますね。」

教授「それは国民が一生懸命働いて納めた金だ。」

学生「合法的印刷機もあるから、金はいくらでも刷れますしね。」

教授「ははは（笑）。それはインフレまっしぐら。」

学生「国民のため、と言いますが、国や自治体には税金を少しでも安くして国民や市民の生活を楽にするという発想はないのでしょうか。」

教授「あるわけないだろ！ 江戸時代の年貢と同じ。」

教授「もうひとつ、政治とは権力だ。これは私が言うまでもないことだけどね。ほかに、講義で「政治とは何か」という問題を出したら、『政治とは賄賂に始まって逮捕に終わるもの』と答えた学生がいた。これには、そこそこ良い点を出した。」

学生「ははは（笑）。」

教授「さらに言うとね、本来は、政治は下水道管のようなものであるべきなんだ。下水道管はとても大事だが、普段、気がつかない。普段、胃の存在に気がつかないが、飲み過ぎで胃が痛くなったときに、その存在に気づく。」

学生「政治は大事ですね。」

教授「そうだね。より良い政治を得るためには政治家選びを慎重にする必要がある。それは選挙だ。みんなが行かなければ得になるのは誰かな。旧ソ連の指導者レーニンは『無関心は権力者、統治者への静かな支持だ』なんて言っていたらしいよ。日本には愚民化政策という言葉もあったぞ。国民はもっと賢くなる必要があるね。政治への無関心は自分で自分の首を絞めること。」

学生「先生、政治は国民の愚かさや馬鹿さ加減のバロメーターではないですか？」

教授「君も僕も含めてね。」

学生「政治が腐っているのは国民が腐っていることの反映でしょうか？」

教授「君は厳しいこと言うね。そういう側面もありそうだな。腐っているんじゃないんだ。腐敗しているだけなんだ。」

学生「同じことじゃないですか！ 腐った国民には腐った政治がちょうど良い、という人がいますが、先生はどう思いますか？」

教授「割れ鍋に綴じ蓋という奴かい？」

学生「政治って、どこまで国民を馬鹿にできるんでしょうか。するんでしょうか。」

教授「馬鹿（うまし）か）度指数の国際比較研究が完成すれば明らかになるが、まだ完成していないようだ。ただ、そもそも、国民を馬鹿にしているんじゃないんだ。舐めているだけなんだ。」

学生「またまた、同じことじゃないですか！」

学生「政治は嘘やインチキやごまかしだらけですね。」

教授「それは政治だけではないよ。社会全般がそうなのだよ。政治の嘘などは、人々や社会の嘘などの反映なのだよ。燃費偽装や顔面偽装や学歴偽装や業績偽装、たくさんある。」

学生「そうですか。」

教授「国民を馬鹿にする政治って言うけど、君だって僕をバカにしてるんじゃないか、酒ばかり飲んでって。」

学生「いったい、誰のための何のための政治なんでしょう。」

教授「昔、リンカーンというアメリカの偉い大統領が、『人々の、人々による、人々のた

めの政治』なんて言っていたらしい。すばらしい言葉だ。日本でも『政治は国民のもの』と小さな字で書いてある政治家の顔写真ポスターがあっちこちに貼ってあるね。これの『国民』の箇所を『オレ』と書き換えたい衝動に襲われたが、やめておいた。もしほんとうに書いたら器物損壊罪に問われるからね。」

教授「ところで、口裂け女と口先政治と口利き政治、君はどれが一番、害が大きいと思う？」
学生「変な質問しないでくださいよ。そりゃ、口先政治ですよ。国民がみんな騙されますからね。だいたい日本の国民はどこまでお人好しなんでしょうか。」
教授「北朝鮮の人は儒教の影響で従順などと言われていた。儒教優等生とね。結果はどうか。お人好しの前提には「愚か」もあるのだ。君と僕のようにね。」

学生「先ほど政治とは権力だというお話がありましたが、昔も今も世界では、そして日本でも、もちろん、地方（日本）でも、政治家の『権力しがみつきの病』がありますね。」
教授「うん、たくさんあるね。権力に酔う政治家、安酒に酔う私たち、だ。」
学生「何ですか、それは！　ところで、先生は銀座のクラブなんか、行ったことがあるんですか。」
教授「私はまあ、何というか、そういうところには行かない主義なんだよ。」
学生「行かないんじゃないじゃなくて、行けないんですよ。金ないから。」
教授「よく知っているね。私は我呷安酒幾十年、諸行無常嗚呼無情だからね。」
学生「意味がわかりません。」
教授「で、昼飯代、貸してくれないかな。」

（２）政治家ってどんな人たち？

学生「政治家はなぜ過ちを認めないのでしょうか。」
教授「そりゃ君、認めたらアウトだからだよ。ごまかすしかないんだよ、ごまかすしか。辻褄合わせ。どこかの国のように、過ちを指摘して銃殺されるよりいいだろ！」
学生「まあ、そりゃそうですがね。」

学生「リーダーは大事ですね。」
教授「『ばかな大将、敵より怖い』という言葉があるね。インパール作戦だよ。あのときは大変だったよ。」
学生「まるで実際に戦ったような言い方ですね。話変えますが、なぜ、日本では高齢の政治ボスなどはコロナに感染しないのでしょうか？」
教授「うーん、コロナウイルスからも嫌われているからか？それとも、コロナウイルスからも恐れられているからか？これは確かに難問だ。」

学生「どうして政治家には悪い人が多いのでしょうか。」
教授「もちろん、良い人もいるよ。でも、元々、政治は悪人がするもの。ドイツのマックス・ウェーバーという政治・経済学者は『政治に携わる者は悪魔と取引をする者である』なんて言っていたらしいね。ちょっと意味は違うけどね。日本では政治家のことを『選良』

と呼ぶこともあるけど、これはおかしい。『選悪』と呼ぶべきだな。」

学生「全責任は私にある、と言いながら責任取らない人がいますね。」

教授「野党が『総理、責任を取ってください』なんて言うと、『責任を痛感し、政治に邁進する』なんて答える人がいたね。やれやれ。」

学生「政治家が民主主義を真に理解しているとは思えないんですが。」

教授「君も私も国民も同じじゃないか。政治家の多くは民主主義が大切だとは思っていないだろう。ロシアのプーチン大統領は民主主義は時代遅れだなんて言っているらしい！

元々、多くの政治家にとっては民主主義はとても面倒な代物なんだ。選挙は大変だからね。

学生「なるほど。」

教授「資本主義が政治と連動して人を狂わせる。資本主義が『もう限界』かどうかは無学な私にはわからん。」

学生「教授は無学なんですか。」

教授「うん、自慢じゃないが、無知、無学。それを自覚している。だからこそ教授なんだ。」

学生「訳がわからん。」

学生「政治家という人種に正義感というものはあるのでしょうか。良心はあるのでしょうか。」

教授「そんなの、両方ともあるわけないだろ。あつたら立派な政治家にはなれないんだよ。」

学生「また変なこと言って。政治家はワルの集団ってことですか。」

教授「正確には、正義感が強いと衝突や軋轢も多くなり、敵も増え、出世の階段を登れなくなるんだ。で、立派な政治家になれないんだ。政治家は結果を睨みつつ、常に計算して動くんだよ。正義や良心は付録なんだ。」

学生「なるほど。」

学生「政治家は国民の命や健康よりオリンピックや保身や政権維持などが重要なんですかね？」

教授「『ひとりの死は悲劇だが、百万の死は統計数字に過ぎない』なんていう言葉があるらしいね。」

学生「それ、自分で勝手に作ったんでしょ。」

教授「いや、ソ連のスターリンやナチスのアイヒマンが言っていたらしいよ。会ったことはないけど。」

学生「政治と政治家には絶望します。」

教授「まあ、そう言わないで。そもそも政治は『妥協』や『打算』や『墮落』の産物なのだよ。これを政治の3Dという。」

学生「また勝手な言葉を作って。」

学生「言うこととやることが違うのは政治家の常、と言いますね。先生もそうじゃないで

すか？」

教授「君は良く知ってるね。でも、それは政治家だけの常ではなく、『人の常』なんだ。そう言えば、『言うは易し、行ふは難し、だから言うのみ』なんて言ってた奴がいたな。」

学生「またごまかす。ご自分じゃないですか！」

教授「そうだったかもしれない。」

学生「ボケたふりして。」

学生「政治家って、ろくな人がいないですね。政治家は都合の悪いことは隠そうとしますね。」

教授「それも政治家の常、人の常。政治家とペテン師はコインの裏表（うらおもて）だ、なんて言葉があったような気もするが、なかったかもしれない。旧ソ連の指導者レーニンは、『富者と詐欺師はメダルの表裏の違いしかない』なんて言っていたらしいね」。

学生「パクリですか！ 大体、政治家って賢いんですか。」

教授「そりゃそうだよ。とくに為政者は権力闘争についてはすごい能力を持っている。だからこそ、政権が取れるんだ。しかし、それに忙しいからか、それ以外のことに忙しいのか、とにかく、歴史や漢字や外国語や広く学問の大切さ等々については詳しくない場合が往々にしてあるね。」

教授「ところで、君はまだ政治家を信じているのかね？」

学生「まあ、半信半疑ですかね。」

教授「世界には自分たちの価値観を一方的に押し付ける為政者や自国民をまるで所有物や奴隷のように扱う為政者がいるだろ。そういうのと比べると、日本はずいぶんまし。」

学生「先生はなんで、そんなんと比べるんですか！」

教授「日本の政治家がいくら信用できないと言っても、まあ、暗殺や公開処刑などをしないからいいよね。」

学生「どうして国民目線とかけ離れた視点の持ち主たちが政治のトップにいるんですか？」

教授「権力闘争を勝ち抜く能力や政治のトップに立つ能力と良い政治を行う能力とは別なのだよ。」

学生「意味がわからない。」

教授「意味を求めてはいけません。元々、それはまやかしですから。」

学生「ますますわからん。先生、哲学者みたいなこと言ってますね。」

教授「もちろん権謀術数、虎視眈々は学者世界にもある。ごますりの得意な奴、裏工作する奴、ライバルを誹謗中傷する奴。いろいろだ。気付かぬふりして付き合うほかはない。そもそも人間嫌いにならずに還暦を迎えることができる人は幸せなんだよ。」

学生「そういうものなんですか…。」

学生「能力の無い政治家を選んだ国民は自業自得なんではないでしょうか。」

教授「そうかもしれない。ただ、彼らは、何度も言うが、能力が無いわけでは無い。権力

闘争を勝ち抜く能力や政治のトップに立つ能力などという違う種類の高い能力は持っているんだ。」

学生「私たちは、そんな人たちに政治を任せていたんですね。」

教授「まあね。」

学生「なぜ政治家や官僚は地位や権力に固執するのでしょうか。」

教授「そりゃ〜、やっぱり、それらは魅力があるからだだろうな。それが彼らのアイデンティティでもあるんだ。」

学生「なるほど。」

教授「政治家は権力が好き。それは蜜の味。残念な生き物、それは政治家！ってね。」

学生「ところで、『引き続き信頼回復に努めたい』って、元々信頼なかったんじゃないの、と言いたい場合がありますね。」

教授「君はよく見ているね。」

学生「政治家に覚悟はあるのでしょうか。」

教授「それは、あると思うね。しかも、強烈な覚悟。政治というのは命がけでやるものらしいよ。二、三度逮捕されて臭い飯を食わないと立派になれないなんて、すごいことを言う人もいるよ。我々のような一般人というか凡人とはラベルとレベルが違うみたいだね。少なくとも彼らには一種の覚悟がある。だからといってやりたい放題は困るけどね。」

教授「講義で、『次のうち最も信用できない職業はどれか。警察官、裁判官、政治家、大学教授』というアンケートを取ったら、政治家がダントツ1位だったよ。」

学生「そりゃ、当然でしょう。」

教授「最後はワルが勝つ〜、なんて歌があっただろ？」

学生「また勝手に作り直してますね！それは、最後は愛が勝つ〜でしょう！」

教授「そうだったかな。」

学生「ワルが地位を得、地位がワルを作る、って感じですかね。」

教授「うん、その通り。元々、僧服が僧侶を作り、兵服が兵士を作るんだ。」

学生「先生はなぜ統計データなどを使わないんですか。」

教授「信用していないからだよ。もちろん、信用できるデータもあるだろう。でも、嘘や間違いやごまかしや陰謀などが含まれている場合がある。しかもそれらは巧妙だ。そして、すぐに新しいデータが出てくる。それらから演繹的に答えを出すとおかしい結論に至る場合が多いからね。」

学生「政治家は偉そうなことを言う場合が多いですね。」

教授「偉そうなことや立派なことはいくらでも言えるんだよ。」

学生「先生もそうなんですか。」

教授「なぜそれを知っているんだ！」

学生「政治家は誰を見て、どこを見て、何を見て、政治をしているのでしょうか？ 国民の声を聞くって？ これまで聞いてこなかったことを認めるのでしょうか？」

教授「ははは（笑）。そうだろうね。」

学生「どんな人々に我々は運命を委ねている（いた）のでしょうか？」

教授「今回、国民はよくわかったと思うよ。」

学生「元々、ろくでもない人間が政治家になる」ということでしょうか？」

教授「そうとは限らんが、正直者や善人が権力を掴むのは難しい。政治に綺麗事は通用しないんだ。悪人が政治家になるのか、政治家が悪人になるのか、これは難問だ。」

学生「うーん、そうですか。」

教授「どこの国でも、いつの時代でも、基本、権力を握ればやりたい放題、ということだ。あの手この手でね。ダイレクトな場合とインダイレクトの場合とがあるけどね。」

学生「権力は蜜の味、ですか。」

教授「うん、ただし、それは巧妙に隠されている。」

学生「権力を握れば休日や祭日も動かすことができるんですね。オリンピックを強行することもできるんですね。なんか、ほんとにやりたい放題って感じがします。」

教授「そうだね。君たち、うかうかしていたら、徴兵制だって出てくるかもよ。国家の危機じゃない、国民の危機なんだ。いろんな意味でね。」

（３）オリンピック強行

学生「オリンピックは一応、無事に終わりましたね。でも、なぜオリンピックを強行するのか、したのか、きちんとした説明はなかったですね。説明をすべきでした。」

教授「あのね、君。政府はいつも、肝心なところでは本当のことを言えないんだ。本音を言うと大変なことになるんだ。オリンピックの場合は、巨大利権とか癒着とか巨額マネーとか、そんなことは言えないんだ。もちろん外国の評判もある。」

学生「先生、全部言ってしまうているじゃありませんか！」

学生「オリンピック開催は快挙でしょうか？ 暴挙でしょうか？」

教授「それは見方によるだろうね。快挙という名の暴挙と言えるかも。」

学生「オリンピック開会式、まるでお祭り騒ぎですね。」

教授「うん、『まるで』じゃなくって『まさに』だな。子ども騙しって言葉があるが、子どもも騙されないな。」

教授「愚政という言葉を知ってるかな？ 愚妻じゃないよ。」

学生「オリンピック興行と吉本興業と、どこがどう違うんですか？」

教授「うーん、難しい。オリンピックというペテンかい？」

学生「嘘が多いですね。安全安心とか、大嘘。」

教授「うん、それは社会の縮図だけだね。飛行機に乗ったんだけど、ほとんど満席。間引

き運航しているから必然的にそうなる。そのくせ、機内アナウンスは密を避けてくださいと言う。」

学生「オリンピックなど、首相がやると言っているからやるってのは、何か、どこか、変だと思いませんか。」

教授「君はボーッとしているようで、なかなか鋭いね。確かに、とても変だね。国民の意思が無視されている。非常に問題な発言だ。民主主義は騙し騙されなんだ。」

学生「ボーッとしているように見えるのは、先生の方が上ですよ。」

教授「そもそも、『オリンピックは平和の祭典』自体がごまかしなのだよ。アスリートを利用して金儲け？ アスリートも、活躍の場が増えるから文句を言わない？」

学生「オリンピックは『Go To トラベル』などと同じ構造だと思います。共に、感染者が増えることはあっても、減ることはないですね。その場合、首相らはどう責任を取るのでしょうか？」

教授「私の友人（アメリカ人）は、日本の首相らは責任を取ってハラキリー（切腹）をするのか、と言っていた。いくら何でもそれはないよね。辞任に追い込まれたり選挙で負けて政権を失ったりというようなことはあるだろう、とは言っておいた。」

学生「なるほど。」

教授「ついでに言うと、これはそもそも、責任の問題じゃないんだ。職を辞したり政権を放棄したりしてもらっても意味がない。感染拡大で亡くなった人たちが蘇るわけではないからね。」

学生「そもそも、何のための誰のためのオリンピックなんでしょうか。オリンピック開催はプライドでも経済でもない、とのことですが。」

教授「決まってるだろ。何度も言うけど、メインは利権だよ、利権！ 私には回ってこないけどね。アスリートのためのオリンピックといいながら、そのベースはもちろん政治や経済のためのオリンピックなんだ。国威発揚、金儲け。」

学生「国民の健康や生命が一番大事なら、なぜやるんでしょうね？」

教授「うん、その疑問は、国民はみんな持っていると思うよ。」

学生「先ほども言いましたが、オリンピックで感染が増えることはあっても、減ることはあり得ないですね。それでいて国民の命と健康を守るって、よくも抜け抜けと言える（言えた）もんです。とにかく、国民の命を危険にさらしてまでよくやりましたね。」

教授「私もそう思うよ。人の命がかかっていたのにオリンピック強行。全国的に第5波が来たけど、オリンピックと第5波との因果関係ははっきりしなかった。というか、はっきりさせなかったのかも。はっきりしたら困るんじゃないか。」

学生「そうですか。」

教授「ほかに言っておきたいことがある。ことは単純じゃないんだ。みんな気づいていると思うが、オリンピックは単なるスポーツの祭典じゃないんだ。巨大な利権の集合体だから。」

らね。そう簡単にやめられないんだ。儲かる予定の人が儲からなくなるから大変なんだ。」
学生「ほかに、以前、オリンピックは東日本大震災からの復興の象徴とか、コロナに打ち勝った証（あかし）とかいろいろ言われていましたが、単なるこじつけだったことが露呈しましたね。」

教授「その通り。口の悪い人は『悪夢の祭典か、悪魔の祭典か』って言ってたね。」

学生「元々、スポーツを美化し過ぎではないでしょうか。」

教授「まったく、その通り。それは巨大戦略なんだ。私は個人的には、元々、見るスポーツには興味はない。もう、スポーツをやる体力もない。自動車にもたくさん『スポーツ』の名前がつけられているが、あれは何なんだ。ほかに最近、『e スポーツ』ってのが出てきたが、あれは単なるネット上のゲームじゃないのかい？ これらに多額の税金が使われるのは腹立たしい。」

学生「言いたい放題ですね。」

教授「政治はそんなスポーツをも飲み込むんだ。ヒトラーだってオリンピックをやったんだ。」

学生「ところで、スポーツと平和とどんな関係があるんですか？オリンピックと平和、何か関係あるんですか？」

教授「あるわけないだろう！ 直接の関係はないよ。無理に結びつけているだけ。オリンピック憲章とか、それらしいことは書いてあるけどね。まあ、一言で言えば、まさに営業戦略だな。」

学生「そうなんですか！」

教授「争いが戦争にならぬように、だって？ スポーツでは互いに対抗心が芽生え、それが増幅されるので、平和な心ではなく、闘争心や敵対心がメラメラと！」

学生「なあるほど。」

教授「政治はスポーツを利用するが、スポーツも政治を利用するんだ。言わば、持ちつ持たれつ、という関係だな。」

学生「あなた方がスポーツに打ち込むことができるのは、そして活躍できるのは、私たちが朝から晩まで働いて米や野菜を作り、ビルや道路を作るからだ」と言っている人がいました。」

教授「うん、その通りだね。」

学生「『安全安心のオリンピック』なんて言っていましたが、そもそも、国民の命と安全が最優先なら、オリンピックはできないはずですね。」

教授「その通りだ。やらざるを得なかった事情があるんだろうが、国民を愚弄しているね。」

学生「その、やらざるを得なかった事情というのは何でしょうか？」

教授「もちろん、密約や利権や～～などのいわゆるオリンピックマネーだ。少し分けて欲しいな。」

学生「何言ってるんですか！」

学生「そもそも、オリンピックって何なんでしょう？」

教授「オリンピックは税金による国を挙げてのお祭りだ。もちろん国威発揚の場でもある。マクロで見れば、巨大なショーだ。」

（４）Go To トラベルという火に油を注ぐ政策

学生「先生は『Go To トラベル』や『Go To イート』などをどう思いますか。」

教授「それらは論外。火に油を注ぐ政策だな。これほど国民の命や健康を無視する愚かな政策はないと思うよ。政府が税金を使ってまでやることじゃない。ましてや利権がらみだと、何をか言わんや、だ。」

学生「『Go To トラベル』など、やるとしても税金を使わないでやって欲しいんですけど。」

教授「私もそう思う。働いても働いても、税金で持って行かれるばかりだからね。」

「私は『Go To トラベル』や『Go To イート』で旅行や飲食する人たちより、旅行したいけど、飲食したいけど自粛する人たちの方が立派だと思うよ。」

（５）スピード感？、誠意が伝わって来ない

学生「ついでに言いますけどね、政治家の『スピード感を持って』とか、『高い緊張感を持って』とか、全然、やる気や誠意が伝わってきませんね。まるでひとごと。国民を馬鹿にしているような感じがします。」

教授「そりゃその通り。政治が国民を馬鹿にしているわかりやすい例だね。まあ、国民はみんなそう思っていると思うよ。」

（６）経済と人命を天秤にかけるのか？

学生「毎日世界中で多くの人が感染し、さらには死んで行っているのに、まだ経済ですか。金、金ですか。」

教授「生物レベルの問題というか命のレベルの問題なのに、『まだ経済』の愚かさだ。人命軽視が甚だしい。経済や経営の問題じゃない。本来、基本は経済より命のはずだけどね。正確には、『経済より人権、そして、人権より人命』だ。経済に配慮すればするほど、人権や人命が疎かになる。人権に配慮すればするほど、人命が疎かになる。」

学生「そうですか。命は経済に含まれるという考え方もあるようですが。経済がポシャると生活困窮者や失業者が増え、自殺者も増えるって。」

教授「関係はあるが、別物だよ。」

学生「経済が破綻したら政権がもたないから、というのが理由？」

教授「そうかもしれんな。ついでに言うと、どこの国の政府も、政府要人も高級役人も、国民のことだけでなく、自己の保身や党の保全や政権の維持（権力保持）やその他いろいろ考えることがあるから大変なんだよ。」

学生「そんなものなんですかね。」

教授「君は政治家の苦しさがわからないようだね。彼らは大変なんだ。あっちから頼まれ、こっちから頼まれ、あっちから票や金をもらい、こっちから票や金をもらい、あっちに頭を下げ、こっちに頭を下げ、と大変なんだ。」

学生「うーん、そんなことですか。」

教授「政治家はあちらに良い顔、こちらに良い顔。八方美人にならざるを得ないんだ。」

学生「だからって、政権取ったらやりたい放題、国民は後回しというのはダメですね。」

教授「もちろん!」

学生「政治家は常に自己の保身や何やかやを考えているんですかね？」

教授「そりゃそうだよ。彼らはそのために政治家になっているんだから。残念ながら、国民の命はそんなコマの一つか。それでも、ないよりマシ。そんなのを許してきた国民もダメだけどね。」

学生「何かまだ言いたいことがあるんですか。」

教授「国民は、経済的豊かさと引き換えに失ったものがいかに大きいか、いい加減気づく必要があると思うね。得たもので失ったものを埋め合わせることはできないんだ。ある歌手（兼、俳優）は昔、『田舎の土地は荒れ放題、どこに男の夢がある』なんて歌ってた。小鮒釣りし小川は用水路に変わった。心の荒廃の問題はとても大きい、またの機会に。」

学生「何をぶつぶつ言っているんですか。もう帰っていいですか。」